あ と が き

暖冬といわれ緩やかな冬から麗らかな春に向かうものと思っていましたが，年が明けると思わぬ寒波の2次，3次の襲来に，皆様寒さを噛み締められたことと思いますが，春は必ず巡るもの。研究での厳しさ，競技での厳しさも，努め，耐えることによっていつかは春のような優しい安らぎを与えてくれることでしょう。21世紀は厳しくも，余裕ある文化を育んでゆきたいものです。

新世紀最初の発刊となる日本体育大学体育研究所雑誌第26号が研究所所員のたゆまぬ努力により完成の運びになりました。毎年原著論文，報告論文が多数寄せられ，体育，スポーツ競技，スポーツ文化の研究が更に深まるものと思われ好ましい限りです。

掲載内容として大学生の生活から体力，栄養，運動能力，酸素動態，筋力，骨密度，局所の形態的変化，小学生の指導，時差環境まで幅広くスポーツを捉えた興味ある論文が投稿されました。また，スポーツ政策，社会のスポーツ環境を論じた示唆に富む内容がみられます。特別寄稿，学術講演，スポーツエッセイではスポーツに携わっている人たちの論考や，スポーツを志す学生の教育を通しての楽しく，また厳しく，励ましとなる話が話題をそえています。

今回は自然科学系の論文が多く，人文社会科学系の論文が少なかったのが心残りです。また，競技種目を特定した研究，保健を論じた研究にも目を向けてほしいと思います。これからも体育に関する多方面にわたる研究が多く寄せられることを望み，スポーツ競技，スポーツ文化，ヘルスプロモーションの分野で本学，日本，世界に対応する雑誌として更に深まり，今後，本学だけでなく，外部，海外からの投稿も期待しうるのではないかと編集委員の一人として思いを馳せています。

櫻井忠義